

# P16 造林事業実行地におけるクロルリハムシ (北海道レッドリスト準絶滅危惧種) の確認報告

檜山森林管理署 佐藤 諒一

## 背景・目的

森林のもつ生物多様性保全機能は国有林事業の重要な課題の一つとして挙げられており、その中で希少種の保全が掲げられています。

クロルリハムシ(*Chrysolina difficilis yezoensis*) は甲虫目ハムシ科に属する昆虫で、北海道のレッドリストにおいて、準絶滅危惧種として掲載されています。本種を檜山署管内の国有林から確認したため、本種の生息状況をより詳細に把握することを目的として、①檜山署管内のどこに生息しているか②どのような環境に生息しているかについて調査しました。



クロルリハムシ  
(体長6~8mm)

## 調査内容・結果

### ①檜山管理署管内でのクロルリハムシの分布調査

本種はオトギリソウ属の一種(*Hypericum* sp. 以下オトギリソウと呼称)を食草としていることが知られているため、まず国有林において、オトギリソウの調査を行いました。計5町15地点において、オトギリソウを確認できました。そのうちオトギリソウに成虫が確認された地点は5町7地点でした。(※クロルリハムシと酷似しているニッコウリハムシも同所的に生息しており、種の識別は成虫でないと難しい)

確認地点については造林事業実行地が多いことがわかりました。(7地点中6地点)



- クロルリハムシ(成虫)を確認した市町村
- ・厚沢部町
  - ・上ノ国町
  - ・木古内町
  - ・知内町
  - ・福島町



採餌するクロルリハムシ



オトギリソウ属の一種

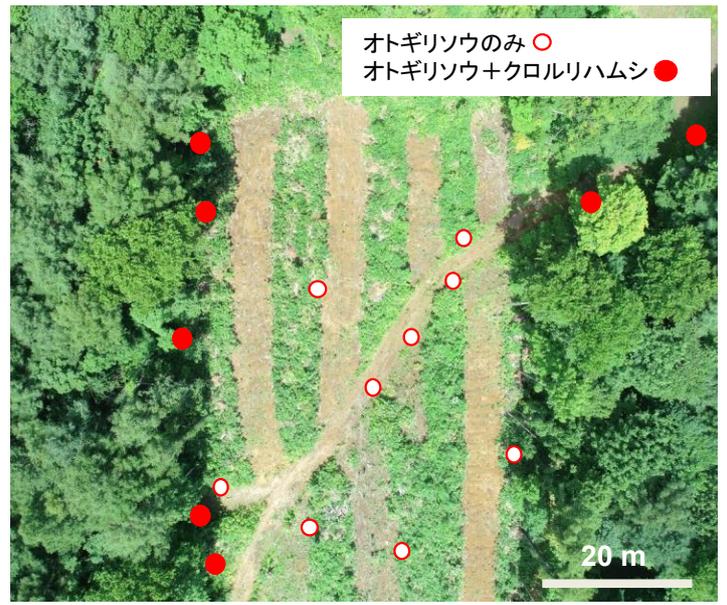
### ②造林地でのクロルリハムシの分布調査

①の結果から造林地(上ノ国町湯ノ岱部内)において、オトギリソウの分布とクロルリハムシの生息箇所の調査を行いました。

右図は無人航空機で上空から造林地を撮影し、そこにオトギリソウの株の位置とクロルリハムシの確認地点をプロットしたものです。この造林地は大型機械地拵えにより強度の地表処理がなされ、植付箇所にはまだほとんどササなどの植生は侵入してきていません。

図のようにオトギリソウは造林地の中心部にも自生するにもかかわらず、クロルリハムシの生息の痕跡(成虫・幼虫・食痕)が確認されたのは林縁部に限られました。

このことからクロルリハムシの生息に適しているのは、造林地の中でも特に林縁部であることが考えられます。



オトギリソウのみ ○  
オトギリソウ+クロルリハムシ ●

## 考察・まとめ

今回の調査ではクロルリハムシが造林地に多く見られましたが、現在北海道森林管理局で行われている主伐方法(複層林施業による帯状伐採)によって、林縁環境を多く創出していることは、本種の生息環境の増加に貢献している可能性があるかと考察しました。

今回の種のように多くの絶滅危惧種に指定されているにも関わらず、詳しい生態情報が知られていない種が、潜在的に北海道の森林に生息していると思われます。それらの種と林業との関わり合いが少しでも解明され、生物多様性保全機能の高い森林が実現されることを期待したいと思います。